

オーストラリア訪問記 ～鉱石大国の今をみた～

2017年11月2日

お伝えしたいポイント

- 中国の供給改革と鉱山会社の増産に対する慎重姿勢はコモディティ市況をサポート
- オーストラリアの鉱山会社が有する高いコスト競争力と環境対策のノウハウを確認

今、コモディティ市況は安定推移にあります。中国で鉄鋼をはじめとする素材産業の過剰生産設備問題が深刻化し、こうした過剰生産設備を削減する“供給改革”が推進される中で順調な世界経済の成長を背景とした需要の増加が背景にあります。このような経済環境の下、世界的な“鉱石”大国オーストラリアの鉱山運営会社を訪問できたことは有意義でした。

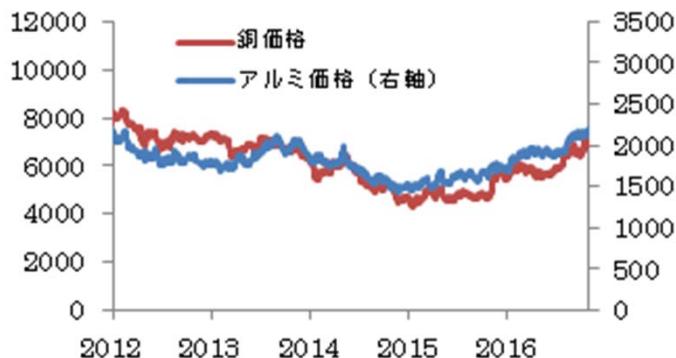
<中国における供給改革は今後もコモディティ市況をサポート>

Supply Side Reform（供給改革）と呼ばれる中国の過剰生産設備を削減する政策は、大きく二つの目的から進められています。ひとつは金融システムの安定化です。生産設備の削減を通じた供給量の調整によって企業収益を改善させ、国営企業が抱える負債がデフォルト（債務不履行）するリスクを軽減させることが狙いです。もうひとつは環境問題への対応です。各種報道で報じられているように中国の大気汚染問題は、鉄鋼の生産や石炭の採掘と密接に関わっています。特に小規模生産者は環境対策が不十分なところが多く、こうした業者を集約することにより、環境問題を解決しようとするものです。

この供給改革の進展を受けて、鉄鋼、石炭、アルミニウムなどの価格は2015年末頃を底に上昇基調です（図表1）。供給改革は2020年までの削減目標が決められており、今後も産業用金属を中心にコモディティ市況を下支えすると見込まれます。また、今回のオーストラリア訪問では、オーストラリアの鉱山会社がコスト削減に重きを置いており、増産には依然として慎重姿勢であることを確認しました。この点もコモディティ市況のサポート要因になると考えられます。

図表1 銅／アルミ市況（米ドル/トン）の推移

（2012年12月末～2017年10月末）



（出所）ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

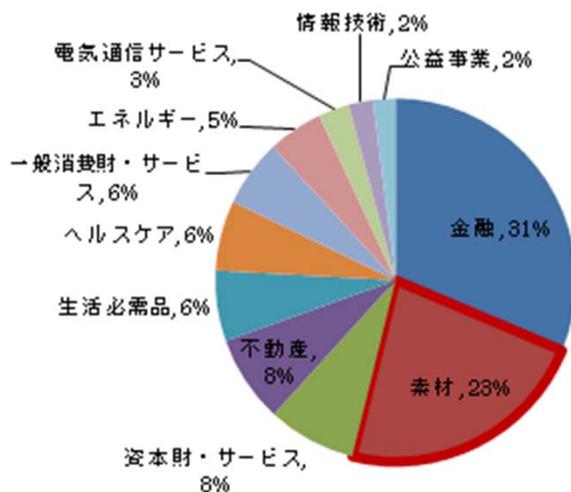
販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

こうしたコモディティ市況に対する追い風は市況による業績への影響度が比較的大きい素材セクターのウエートが相対的に高いオーストラリア株式市場（図表2）や、世界の素材関連銘柄にとってポジティブと考えられます。

図表2 オーストラリア上場企業のセクター別時価総額ウエート（2017年10月末時点）



（出所）ブルームバーグ

<オーストラリアの鉱山会社が有する高いコスト競争力と環境対策のノウハウを確認>

ニューサウスウェールズ州にあるMaules Creek炭鉱を訪れました（写真1）。オーストラリアの石炭開発の歴史は古く、シドニーを州都とするニューサウスウェールズ州の初期の発展に大きく寄与しました。今回訪れたMaules Creek炭鉱はオーストラリアの鉱山会社ホワイトヘブンコール、伊藤忠商事、電源開発（Jパワー）の3社による合併事業で日本の火力発電所など向けに石炭を輸出しています。同炭鉱は大型資材の導入が可能で露天掘りによる掘削を行っており、高いコスト競争力を持ちます。また港までの輸送に必要な鉄道設備がすでに整備されており（写真2）、輸送費を含めたトータルでのコスト競争力にも優れています。



写真1 Maules Creek炭鉱



写真2 港までの輸送は鉄道で行われる。

（出所）大和投資信託撮影

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

米国アルミ生産大手のアルコアが西オーストラリア州に有するHuntlyボーキサイト（アルミ原料）鉱山とPinjarraアルミ精錬工場を訪れました（写真3）。オーストラリアは世界のボーキサイト生産の約30%を占めるボーキサイト大国です。アルコアが保有するHuntlyとWillowdaleの二つの鉱山は、実にオーストラリアにおけるボーキサイト生産の約40%を占めます（この二つの鉱山で世界生産の15%程度を占める）。今回の訪問で、効率的に自動化された生産設備を確認できました（写真4）。

また、高いレベルでの環境対策も確認できました。開発が終了した鉱山では森が復元され、水質管理も継続的に行われるなどアルコア社が有する環境対策のノウハウを痛感しました（写真5）。



写真3 Pinjarraアルミ精錬工場



写真4
鉱石の粉碎から精錬所への輸送まで自動化



写真5 復元された森や水源

（出所）大和投資信託撮影

同社の担当者が、「コストと環境の両面でボーキサイト鉱山業界のリーダーであることを誇りに思う」と話していたのが印象的でした。このような経済性と環境対応の両立は、新興国の鉱山開発における中長期的な目標になると考えます。

以上

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。